

平成31年度 自己評価計画書

石川県立松任高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
1 授業規律の維持に努め、落ち着いた学習環境のもと、確かな学力を身に付けさせ、進路実現を支援する。	① すべての生徒が授業を受ける基本的態度を身につけられるように指導する。	教務課 各教科 各学年	一昨年度の69.7%から昨年は78.7%へ上昇した。生徒による授業評価では「教員が私語や居眠りを注意している」割合が88.9%に増加しており、生徒への指導の徹底が、生徒の良好な授業態度に表れている。	【成果指標】 生徒は私語や居眠りをせず、常に授業に集中している。	私は私語や居眠りをせずに集中して授業に参加している、という割合が A 85%以上である。 B 80%以上85%未満である。 C 70%以上80%未満である。 D 70%未満である。	Dの場合、各教科・学年で指導法を見直す。	7月と12月に生徒を対象に調査を行う。
	② 授業の工夫、授業公開・公開授業研究会の充実等を通して、授業力の向上を図り、生徒の理解を深める。	教務課 各教科	昨年は「理解できる」79.3%であったが、「興味・関心」が低下している。「発展的な授業」を希望する割合が増加していることから、興味・関心を持たせるためにも、発展的な内容を、多くしていく必要がある。	【満足度指標】 授業内容に興味・関心が持て、理解できる。	私は授業内容に興味・関心が持てると答えた生徒の割合が A 85%以上である。 B 80%以上85%未満である。 C 70%以上80%未満である。 D 70%未満である。	Dの場合、各教科・学年で指導法を見直す。	7月と12月に生徒を対象に調査を行う。
	③ 家庭での学習習慣の確立を図り、家庭学習時間の増加を目指す。	教務課 各教科 各学年	昨年度は73.5%であった。0時間の生徒について、1年生は8人から1人、2年生は3人から0人と減少したが、3年生は14人から20人と増加した。入学時からの指導が重要であるが、進路が決定した3年生に意欲を持たせることが必要である。	【成果指標】 全員が家庭学習の習慣を身に付け、家庭学習時間が平均1日1時間を超える。	平均1日1時間を超えている生徒の割合が A 70%以上である。 B 60%以上70%未満である。 C 50%以上60%未満である。 D 50%未満である。	CまたはDの場合、あるいは0時間の生徒がいる場合は各教科・学年で指導法を改善する。	毎日実施している家庭学習時間調査により評価する。
	④ 1年次より進学希望者に対しガイダンス機能を高め、個別指導や支援体制を強化することで入試結果満足度90%以上を目指す。	進路指導課 3学年	昨年度は84.1%であった。推薦入試やAO入試で進学する生徒の割合が高く、専願では100%合格できたが、併願可の推薦入試では苦戦した。併願可で合格できる学力の育成が課題であり、推薦入学対策が重要である。また、進学希望者の基礎学力を基盤とする早期の目標設定が課題である。	【満足度指標】 生徒が入試結果に満足している。	3年生の進学希望者で自分の入試結果に満足している生徒の割合が A 90%以上である。 B 85%以上90%未満である。 C 80%以上85%未満である。 D 80%未満である。	CまたはDの場合、取り組みを再検討する。	100%を目標に年度末まで支援する。
	⑤ 1年次よりキャリアに対する意識を高め、就職希望者全員の内定を実現するとともに、内定先満足度90%以上を目指す。	進路指導課 3学年	昨年度は90.0%であった。学校紹介を希望する生徒の98%の就職が決定した。第1志望で合格した生徒がほとんどである。一方で、卒業決定後に非正規雇用を含め選択する生徒も若干名在籍し、多様な生徒に対応しながらも、「望ましい職業観の育成」が今後とも重要である。	【満足度指標】 生徒が自分の内定先に満足している。	3年生の就職希望者で自分の内定先に満足している生徒が A 90%以上である。 B 85%以上90%未満である。 C 80%以上85%未満である。 D 80%未満である。	CまたはDの場合、取り組みを再検討する。	100%を目標に年度末まで支援する。

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
2 挨拶の励行、端正な服装容儀、遅刻・欠席の減少等、のぞましい生活習慣を確立させ、心豊かで安心感のある学校づくりを促進する。	①	生活指導課 生徒会課 各学年	昨年度は83.9%であった。生徒の内面的な成長をとらえるため、調査項目を「自ら挨拶をする生徒の割合」に変更した。授業の始まりと終わりの挨拶の励行や日常的な声掛けにより、笑顔のあふれる明るい学校作りを推進していく。	【満足度指標】 生徒会、部活動、生活委員、PTAと協力し、年5回の挨拶運動を行い自分から挨拶する機会を増やす。	自ら挨拶をしている生徒の割合が A 90%以上である。 B 85%以上90%未満である。 C 80%以上85%未満である。 D 80%未満である	CまたはDの場合、指導法を再検討する。	7月と12月に生徒を対象に調査を行う。
	②	生活指導課 各学年 総務課	昨年度は93.3%であった。前期と後期を比較しても差はなく、各学年を比較しても90%以上の肯定的評価をしている。全教員が協力し、生徒の意識を更に高めたい。	【成果指標】 端正な服装、容儀で学校生活に臨んでいる。	自分は服装、容儀を端正に整えて学校生活に臨んでいると思う生徒の割合が A 95%以上である。 B 85%以上95%未満である。 C 80%以上85%未満である。 D 80%未満である。	CまたはDの場合は、指導法を見直す。	7月と12月に生徒を対象に調査を行う。
	③	生活指導課 各学年 相談室	一昨年80%から昨年は60%へ減少した。遅刻に対する意識が低下している。気持ちよく集団行動を始めるために必要なこととして、時間厳守の視点で指導に取り組むことが重要である。	【成果指標】 職員は組織的な指導を行い、生徒に時間を守る習慣を身に付けさせる。	年間の遅刻回数0(ゼロ)の生徒の割合が A 90%以上である。 B 80%以上90%未満である。 C 70%以上80%未満である。 D 70%未満である。	CまたはDの場合は、指導法を見直す。	中間集計及び年度末に最終集計を行う。
	④	生活指導課 各学年	いじめアンケートや面談、生徒の観察を通じて、トラブルの早期発見に努めてきた。生徒に「いじめ問題対策チーム」を周知し、学校としていじめを許さないとの姿勢を示してきた。いじめの可能性があると判断した場合には組織的に継続的な見守りを行っている。昨年度は97.6%であったが100%になるようにしていきたい。	【成果指標】 職員はいじめ対策チームを中心に組織的かつ迅速に対応する。	いじめの早期発見に努めるとともに、いじめを察知した場合には職員間で必要な情報を共有し、組織的かつ迅速に対応できていると評価する職員の割合が A 100%である。 B 95%以上100%未満である。 C 90%以上95%未満である。 D 90%未満である。	CまたはDの場合は、職員間の連携、対応方法を再検討する。	7月と12月に職員を対象に調査を行う。
	⑤	保健相談課 各学年	保健室と相談室、担任で気になる生徒の迅速な情報共有を図ってきた。必要に応じて、スクールカウンセラーや外部機関のアドバイザーから専門的な助言をしてもらい、個別支援に活用している。昨年度は92.6%であったが100%になるようにしていきたい。	【成果指標】 職員間の連携を密にして、生徒一人ひとりの理解を深め、組織的に早期支援ができる。	職員間で気になる生徒の情報を共有し、関係機関と連携し、組織的に生徒の支援ができていると評価する職員の割合が A 100%である。 B 95%以上100%未満である。 C 90%以上95%未満である。 D 90%未満である。	CまたはDの場合は、職員間の連携および外部機関との連携のあり方を再検討する。	7月と12月に職員を対象に調査を行う。

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
3 練習と休養のバランスのとれた部活動、ボランティア活動等の生徒会活動を推進することで、心身ともに健やかな生徒を育成する。	① 部活動加入を促進すると共に継続して部活動に参加することの大切さを理解させる。	生徒会課	昨年度は79.3%の加入率であった。一昨年の70.8%より上昇している。1年生の当初から入部した生徒は概ね継続していることから、入学時に部活動の有為性と継続の大切さを伝えていくことが大切である。また、地域探究部による活動を通じて部活動に新たに入部することを促す取り組みを行っていききたい。	【成果指標】 部活動への加入を促し、継続して活動する生徒の割合を高める。	継続して部活動をしている生徒の割合が A 90%以上である。 B 80%以上90%未満である。 C 70%以上80%未満である。 D 70%未満である。	CまたはDの場合、指導法を再検討する。	4月と10月に集計する。1・2年生の割合を基準とする。
	② 生徒会、部活動、各種委員会、学年での地域交流や貢献活動への参加の機会を増やす。	生徒会課 総務課 各学年	昨年度はフェンシング部の103回を含め170回であった。24の部・同好会中16部と1委員会が活動を行った。部活動を中心に、ボランティア活動等への意識は高まってきている。今後も継続した活動になるよう、活動の幅を広げていききたい。	【成果指標】 地域(外部)の活動に、すべての部活動が年1回以上参加する	部活動等で外部(地域)の活動に参加した延べ回数が A 200回以上である。 B 170回以上200回未満である。 C 150回以上170回未満である。 D 150回未満である。	CまたはDの場合、取り組みを再検討する。	9月と2月に集計する。
	③ 生徒保健委員を中心に、生徒全体に対して睡眠や食事等の大切さについて伝え、自己の健康管理能力を向上させる。	保健相談課	生活習慣に関する調査を毎月実施し、その結果を保健だよりに載せることで、生徒が自身の生活習慣を振り返る機会としている。今後も定期的に調査と結果分析を行い、生徒の自己管理の意識が向上するよう取り組んでいききたい。	【成果指標】 生徒は睡眠や食事を大切にし、自己の健康管理への意識を高めている。	私は、睡眠や食事をとる意識が高まってきていると答えた生徒の割合が A 70%以上である。 B 60%以上70%未満である。 C 50%以上60%未満である。 D 50%未満である。	Dの場合、取り組みを再検討する。	生徒を対象に月1回程度調査を行う。
4 生徒・保護者・地域の理解を得ながら、教職員の多忙な勤務状況を改善し、質の高い教育活動の継続に努める。	① 職員がワークライフバランスを意識して計画的かつ効率的に業務を遂行する。	教頭	国や県をあげて「教職員の多忙化改善に向けた取組方針」を打ち出しており、本校でも行事予定を工夫する等取組を行っている。校務分掌や大会前の部活動指導で時間外勤務が増えることが予想されるが、月1回の定時退校日の設定、定期試験や長期休業期間の定時退校を意識して校務を行うことにより、職員の意識啓発と環境整備を進めていく。	【成果指標】 前年度よりも仕事の効率化や時間外勤務時間の削減を意識する。	前年度よりも仕事の効率化や時間外勤務の削減を意識して取り組んでいる職員が A 100%以上である。 B 90%以上100%未満である。 C 80%以上90%未満である。 D 80%未満である。	CまたはDの場合、取り組みを再検討する。	7月と12月に職員を対象に調査を行う。
5 学校の取り組みや生徒の活動への理解を深めるため、広報活動の充実を図り、保護者・地域から信頼される学校づくりに努める。	① 学年や各課からの通信の発行やホームページの更新、メール配信を随時行い、学校の教育活動を積極的に発信する。	総務課 情報管理室 各学年 各課 各部	昨年度は80.6%であった。学年通信の発行やホームページの更新、メール配信は定着しており、リアルタイムに取り組むことができている。より良い情報発信ができるようにPTA役員会等で改善点など情報収集していききたい。また、メール配信登録100%を目指し保護者に案内していききたい。	【満足度指標】 保護者に向けたメール配信やホームページの情報の更新を随時行い、学校の取り組みに対して理解を深める。	広報活動(各種通信、メール配信、HP等)が充実しており学校の取り組みに対して理解が深まったと答える保護者の割合が A 90%以上である B 80%以上90%未満である C 70%以上80%未満である D 70%未満である	CまたはDの場合、取り組みを再検討する。	7月と12月に調査を行う。